

# 北海道観光入込客数調査報告書

平成19年度

観光入込客数（実人数）	1 頁
（参考）	
観光入込客数（延べ人数）	3 頁
交通機関別来道観光客数（実人数）	6 頁
訪日外国人来道者数	
1 訪日外国人来道者数（実人数）	7 頁
2 訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）	9 頁

平成20年7月

北海道経済部観光のくにづくり推進局

# 北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

## 1 観光客入込客数調査について

本調査は、全国観光統計基準により道が定めた「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、各市町村が調査を行った結果を集計したもので、半期毎に実施しています。

## 2 調査内容

### (1) 観光入込客数

#### ア 観光入込客数【実人数】

各市町村の観光入込客数や観光動態調査などにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

#### イ 観光入込客数【延べ人数】

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。

### (2) 来道観光客数

交通機関（航空機、フェリー、鉄道）の下り便の輸送実績を基に「来道観光客動態調査」などにより推計した来道観光客の実人数

### (3) 訪日外国人来道者数

北海道を訪れた外国人について、「宿泊施設調査」などにより推計した訪日外国人来道者数の実人数

## 3 利用上の留意事項

(1) 今回の調査は、平成19年度（平成19年4月～20年3月）を対象に行っており、4・5月を「春」、6～9月を「夏」、10・11月を「秋」、12～3月を「冬」として、取り扱っています。

(2) 市町村毎の観光入込客数調査では、実人数を推計していますが、「支庁の計」、「圏域の計」は延べ人数となっています。

(3) 各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

## 観光入込客数（実人数）

平成19年度の観光入込客数の総数（実人数）は、4,958万人となり、前年度の4,909万人に対し、101.0%となりました。

平成18年の航空会社の新規参入に伴う運賃値下げにより好調だった前年度に比べ来道者が減少したほか、ゴールデンウィークや海水浴シーズンの天候不順、原油高によるガソリンの高値など減少要因もありましたが、北海道洞爺湖サミット開催決定の効果や引き続き旭山動物園人気、東アジアを中心とした海外からの来道者が引き続き増加していることなどから、観光入込客数は2年連続で前年度を若干上回りました。

道外・道内客別にみると、道外客は649万人で前年度の98.5%と減少となりましたが、道内客は4,309万人で同101.4%と増加となりました。

構成比でみると、道外客が13.1%、道内客が86.9%となっています。

日帰り・宿泊客別にみると、日帰り客は3,534万人で前年度の104.1%と増加となりました。宿泊客は、道外客が98.5%、道内客が90.7%と減少となり、全体では1,424万人で94.1%と減少となりました。

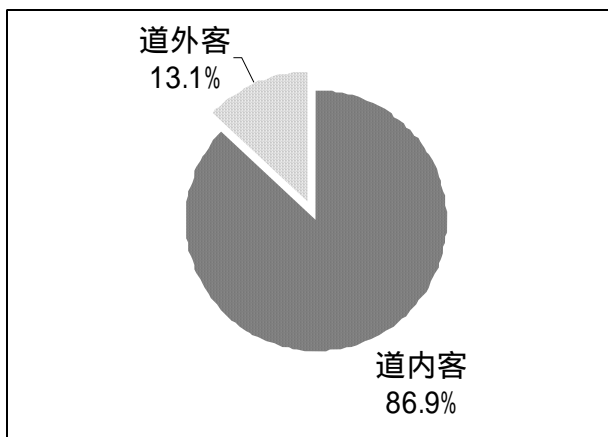
構成比でみると、日帰り客が71.3%、宿泊客が28.7%となっています。

季節別にみると、夏季が前年度の99.3%と減少したほかは、春季が同101.5%、秋季が同104.3%、冬季が102.7%と増加しました。

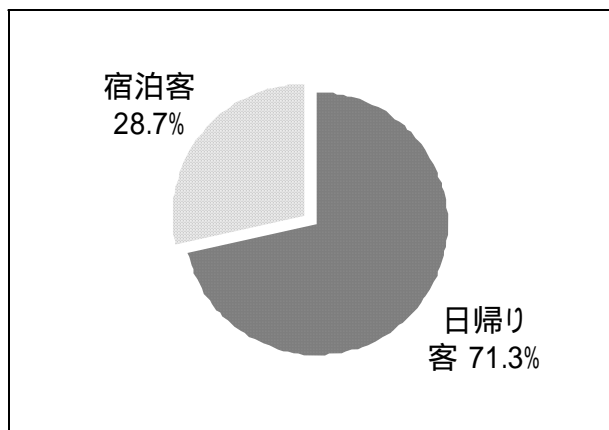
### <平成19年度 観光入込客数（実人数）>

区 分	観光入込	左の内訳		季節別内訳			
		日帰り客	宿泊客	春	夏	秋	冬
道 外 客	649万人	2万人	647万人	82万人	356万人	77万人	134万人
構成比	13.1%	0.3%	99.7%	12.6%	54.9%	11.9%	20.6%
前年比	98.5%	100.0%	98.5%	96.5%	99.4%	97.5%	97.1%
道 内 客	4,309万人	3,532万人	777万人	663万人	2,141万人	601万人	904万人
構成比	86.9%	82.0%	18.0%	15.4%	49.7%	13.9%	21.0%
前年比	101.4%	104.1%	90.7%	102.2%	99.3%	105.3%	103.6%
合 計	4,958万人	3,534万人	1,424万人	745万人	2,497万人	678万人	1,038万人
構成比	100.0%	71.3%	28.7%	15.0%	50.4%	13.7%	20.9%
前年比	101.0%	104.1%	94.1%	101.5%	99.3%	104.3%	102.7%

【道内・道外客別構成比】



【日帰り・宿泊客別構成比】



【観光入込客数（実人数）の推移】

（上段：人数、下段：前年度比）

	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	人数	うち上期	人数	うち上期	人数	うち上期	人数	うち上期	人数	うち上期
道外客	635万人	436万人	632万人	430万人	635万人	430万人	659万人	443万人	649万人	438万人
	99.5%	101.3%	99.5%	98.7%	100.5%	99.9%	103.8%	103.0%	98.5%	98.9%
道内客	4,304万人	2,864万人	4,207万人	2,779万人	4,178万人	2,741万人	4,250万人	2,804万人	4,309万人	2,804万人
	98.5%	98.3%	97.7%	97.0%	99.3%	98.6%	101.7%	102.3%	101.4%	100.0%
日帰り客	3,442万人	2,533万人	3,348万人	2,452万人	3,336万人	2,433万人	3,395万人	2,554万人	3,534万人	2,507万人
	98.4%	97.5%	97.3%	96.8%	99.7%	99.2%	101.8%	105.0%	104.1%	98.2%
宿泊客	1,497万人	767万人	1,491万人	757万人	1,477万人	738万人	1,514万人	722万人	1,424万人	735万人
	99.2%	102.9%	99.5%	98.7%	99.1%	97.5%	102.5%	97.9%	94.1%	101.8%
計	4,939万人	3,300万人	4,839万人	3,209万人	4,813万人	3,171万人	4,909万人	3,249万人	4,958万人	3,242万人
	98.6%	98.7%	98.0%	97.2%	99.5%	98.8%	102.0%	102.5%	101.0%	99.8%

## 【参考】 観光入込客数（延べ人数）

### 1 総数

平成19年度の観光入込客数の総数は、延べ1億3,984万人で、前年度の99.6%（59万人減）となりました。

### 2 道外・道内客別

道外客は、4,445万人で前年度比97.7%（106万人減）道内客は、9,539万人で同100.5%（47万人増）となりました。

構成比で見ると、道外客が31.8%、道内客が68.2%となっています。

### 3 日帰り・宿泊客別

日帰り客は、1億1,358万人で前年度比100.5%（58万人増）宿泊客は、2,626万人で同95.8%（116万人減）となりました。

構成比で見ると、日帰り客が81.2%、宿泊客が18.8%となっています。

#### <平成19年度観光入込客数（延べ人数）>

区分	観光入込客数	前年度対比	増減数	構成比
総数	13,984万人	99.6%	59万人	100.0%
道外客	4,445万人	97.7%	106万人	31.8%
道内客	9,539万人	100.5%	47万人	68.2%
日帰り客	11,358万人	100.5%	58万人	81.2%
宿泊客	2,626万人	95.8%	116万人	18.8%

### 4 月別・季節別

月別で見ると、8月が最も多く全体の15.4%を占め、次いで7月が13.6%、9月11.2%の順となっています。また、前年度比では構成比の高い7、8、9月でそれぞれ95.8%、97.3%、98.4%と減少したことから、通年でみると増加した月が多かったものの、全体ではやや減少しました。

季節別にみると、夏季が前年度比で98.1%と減少しましたが、春季が同100.2%、秋季が同101.4%、冬季が同101.4%と増加しました。

#### <月別・季節別観光入込客数（延べ人数）>

区分	春		夏				上期
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月別	736万人	1,350万人	1,375万人	1,895万人	2,158万人	1,572万人	9,086万人
構成比	5.3%	9.7%	9.8%	13.6%	15.4%	11.2%	65.0%
前年度比	106.6%	97.1%	102.7%	95.8%	97.3%	98.4%	98.6%
季節別	2,085万人		7,001万人				9,086万人
構成比	14.9%		50.1%				65.0%
前年度比	100.2%		98.1%				98.6%

区分	秋		冬				下期	年間合計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
月別	1,274万人	693万人	652万人	725万人	825万人	729万人	4,898万人	13,984万人
構成比	9.1%	5.0%	4.7%	5.2%	5.9%	5.2%	35.0%	100%
前年度比	101.6%	101.1%	105.1%	100.7%	98.4%	102.6%	101.4%	99.6%
季節別	1,967万人		2,931万人				4,898万人	13,984万人
構成比	14.1%		21.0%				35.0%	100%
前年度比	101.4%		101.4%				101.4%	99.6%

## 5 圏域別

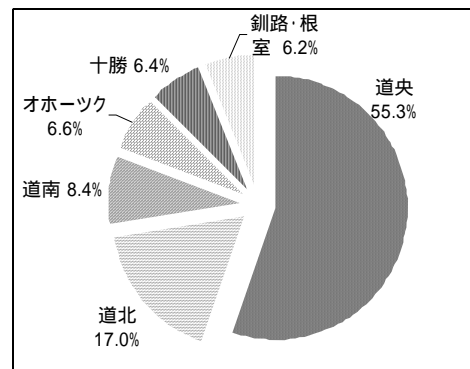
圏域別で見ると、前年度に比べ、道央圏100.9%、十勝圏100.6%、道北圏100.1%と増加しましたが、オホーツク圏や釧路・根室圏、道南圏はそれぞれ92.8%、94.4%、99.1%と減少しました。

なお、各圏域の特徴は次のとおりです。

- 【道 央】 千歳市のアウトレットモール・レラの増床による観光客の増加、恵庭市の道の駅「花ロードえにわ」への入込みの増加、北海道洞爺湖サミット開催決定の効果、平成19年6月の全国植樹祭の開催などの増加要因がありました。減少要因では、航空会社の新規参入等による運賃の値下げにより好調だった前年の反動で来道者が減少したほか、天候不順による海水浴客の減少により、全体ではほぼ前年並みとなりました。
- 【道 北】 「旭山動物園」人気が依然として高く、その効果が旭川市はもとより周辺市町村にも及んでいるものの、他の地域では原油高によるガソリンの高値により日帰り客が減少していることなどから、全体では前年並みとなりました。
- 【道 南】 平成19年9月には高速フェリー「ナッチャンRera」の就航など増加要因もありましたが、一昨年開業した五稜郭タワー、噴火湾パノラマパークの開業効果が一段落したこと、また、ゴールデンウィーク、夏休み期間中の道外客の入込が減少したことから、全体ではやや減少しました。
- 【オホーツク】 冬期間は流氷の長期接岸による増加要因もありましたが、知床の世界自然遺産効果が薄れてきたことや春先の低温により芝桜(大空町、滝上町)やチューリップ(上湧別町)などの開花時期が遅れたこと、また、一部のスキー場が廃業したことなどから大きく減少しました。
- 【釧路・根室】 知床の世界自然遺産効果が薄れてきたことの影響もあり、道東を周遊する道外の団体観光客が減少していることや、原油高によるガソリンの高値により日帰り客についても減少していることなどから大きく減少しました。
- 【十 勝】 シーニックカフェ(士幌町)や道の駅なかさつない(中札内村)などの入込が増加した施設やばんえい競馬が通年開催されるなどの増加要因があったものの、道外宿泊客の減少などにより、全体ではほぼ前年並みとなりました。

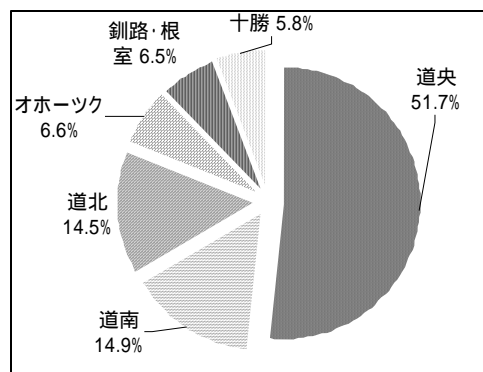
<観光入込客数(延べ人数)圏域別構成比>

圏 域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道 央	7,737万人	100.9%	66万人	55.3%
道 北	2,377万人	100.1%	3万人	17.0%
道 南	1,178万人	99.1%	11万人	8.4%
オホーツク	925万人	92.8%	71万人	6.6%
十 勝	899万人	100.6%	5万人	6.4%
釧路・根室	868万人	94.4%	52万人	6.2%
合 計	13,984万人	99.6%	59万人	100.0%



< 宿泊客延べ数 圏域別構成比 >

圏域	宿泊客延べ数	前年度比	増減数	構成比
道央	1,695万人	94.2%	105万人	51.7%
道南	488万人	100.1%	0.3万人	14.9%
道北	475万人	100.3%	1万人	14.5%
オホーツク	216万人	93.9%	14万人	6.6%
釧路・根室	214万人	94.0%	14万人	6.5%
十勝	191万人	97.5%	5万人	5.8%
合計	3,279万人	96.0%	136万人	100.0%



6 市町村別

市町村別で見ると、札幌市が1,378万人（前年度比97.7%）で最も多く、次いで、小樽市741万人（同96.2%）、旭川市733万人（同105.1%）以下、千歳市、函館市、釧路市、洞爺湖町の順となっています。

一方、宿泊客延べ数で見ると、札幌市が924万人（前年度比90.5%）で最も多く、次いで、函館市421万人（同101.5%）、釧路市137万人（同93.4%）以下、登別市、上川町、帯広市、旭川市の順となっています。

< 観光入込客数の多い市町村 >

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,378万人	97.7%
2	小樽市	741万人	96.2%
3	旭川市	733万人	105.1%
4	千歳市	559万人	130.2%
5	函館市	482万人	99.0%
6	釧路市	377万人	94.5%
7	洞爺湖町	338万人	105.4%
8	登別市	330万人	106.7%
9	喜茂別町	300万人	100.4%
10	上川町	250万人	97.8%
11	帯広市	236万人	91.2%
12	七飯町	208万人	99.7%
13	富良野市	207万人	98.1%
14	砂川市	195万人	99.3%
15	白老町	193万人	102.3%
16	壮瞥町	188万人	107.2%
17	伊達市	188万人	110.8%
18	網走市	167万人	99.2%
19	石狩市	155万人	89.7%
20	北見市	152万人	98.7%

< 宿泊客延べ数の多い市町村 >

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	924万人	90.5%
2	函館市	421万人	101.5%
3	釧路市	137万人	93.4%
4	登別市	130万人	99.3%
5	上川町	90万人	98.2%
6	帯広市	84万人	102.8%
7	旭川市	75万人	107.3%
8	洞爺湖町	74万人	105.1%
9	小樽市	73万人	94.9%
10	倶知安町	71万人	104.8%
11	北見市	68万人	84.4%
12	網走市	63万人	110.0%
13	富良野市	61万人	105.2%
14	斜里町	53万人	88.6%
15	音更町	53万人	95.7%
16	二セコ町	53万人	97.4%
17	東川町	50万人	107.0%
18	稚内市	41万人	99.7%
19	留寿都村	40万人	99.7%
20	弟子屈町	38万人	91.6%

## 【参考】 交通機関別来道観光客数（実人数）

### 1 概況

平成19年度の交通機関（航空機・フェリー・鉄道）の下り便の輸送実績を基に推計した来道観光客数は649万人で、前年度の659万人に対して98.5%となっています。

季節別で見ると、春季は前年度比96.5%、夏季は同99.2%、秋季は同97.5%、冬季は同97.1%と全ての季節で減少しました。

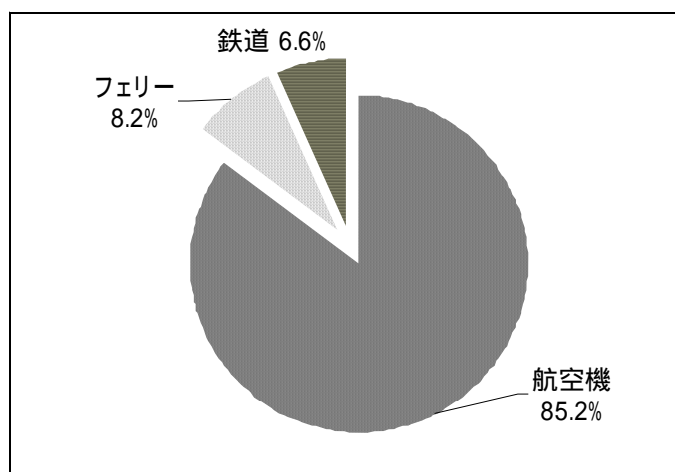
### 2 交通機関別の状況

交通機関別で見ると、航空機は98.4%及び鉄道は95.6%と前年を下回りましたが、フェリーは101.9%と増加しました。

<平成19年度来道観光客数（交通機関別・季節別）>

区 分		合 計	構成比	春(4・5月)	夏(6～9月)	秋(10・11月)	冬(12～3月)
合 計	来道観光客数	649万人	100.0%	82万人	355万人	77万人	134万人
	構成比	100.0%		12.6%	54.7%	11.9%	20.6%
	前年度対比	98.5%		96.5%	99.2%	97.5%	97.1%
航 空 機	来道観光客数	553万人	85.2%	67万人	302万人	66万人	118万人
	構成比	100.0%		12.1%	54.6%	11.9%	21.3%
	前年度対比	98.4%		98.5%	99.7%	97.1%	95.9%
フェリー	来道観光客数	53万人	8.2%	8万人	32万人	5万人	7万人
	構成比	100.0%		15.1%	60.4%	9.4%	13.2%
	前年度対比	101.9%		88.9%	97.0%	125.0%	100.0%
鉄 道	来道観光客数	43万人	6.6%	7万人	21万人	6万人	9万人
	構成比	100.0%		16.3%	48.8%	14.0%	20.9%
	前年度対比	95.6%		87.5%	95.5%	100.0%	100.0%

【交通機関別構成比】





## 【参考】 訪日外国人来道者数

### 1 訪日外国人来道者数（実人数）

#### (1) 概況

平成19年度の訪日外国人来道者数は、実人数で71万950人となり、前年度の59万650人に対し120.4%と増加しました。

ビジット・ジャパン・キャンペーン事業によるPR効果や民間事業者、関係団体など一体となった海外プロモーション活動の推進に加え、新たな定期路線の就航や円安基調（韓国、シンガポール、オーストラリア）により、前年度に比べ増加しました。

#### (2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は、63万2,800人で前年度53万4,450人に対し118.4%と増加しました。

シンガポールからの来道者は前年度比196.0%、中国も155.3%と大幅に増加、韓国や香港も増加し、台湾は前年度比103.5%と2年ぶりに増加となっています。

また、依然として北海道へのスキー人気が高いオーストラリアからの来道者も145.3%と引き続き増加しています。

国・地域別で見ると、台湾が27万7,400人（前年度比103.5%、構成比39.0%）と最も多く、次いで、韓国が16万9,300人（同126.5%、23.8%）、香港が10万8,000人（同125.5%、15.2%）、シンガポールが3万7,150人（同196.0%、5.2%）の順となっています。

【台湾】 中部地方など国内他地域の人気の高まりや、日本でのはしか（麻疹）の流行が大きく報道されたことなど減少要因はありましたが、紅葉ツアーなど多数チャーター便が運航されたことによりやや増加しました。

【韓国】 為替相場が円安基調であること、温泉やゴルフ人気が依然高いこと、ビザ免除（90日以内）効果が継続していること、旭川 - ソウル線が週3便から4便へ増便されたことやソウルから新千歳、釧路へのチャーター便が増加したことにより大きく増加しました。

【香港】 香港経済が好調であることに加え、レンタカーなどを利用した旅行への関心が高まっていること、チャーター便も多数運航されたことにより大きく増加しました。

【中国】 本道の自然や温泉への人気が高く、経済が好調であることに加え、新たな定期路線（新千歳～北京、週2便）（新千歳～大連、週2便）の就航により大きく増加しました。

【シンガポール】 ラベンダーなどの花や新鮮な食への人気やレンタカーなどを利用した旅行への関心が高く、北海道人気が非常に高まっており、加えて為替相場が円安基調であることから倍増しました。

【オーストラリア】 資源ブームを背景とした好調な経済に加え、引き続きニセコ、富良野などへのスキー人気が高く、加えて為替相場が円安基調であることから大きく増加しました。

<平成19年度訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区 分		ア ジ ア							ヨーロッパ	
		中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	その他	小 計	ロシア	その他
春 季 (4・5月)	19年度	2,950	22,250	39,500	12,100	4,550	1,800	83,150	1,100	600
	18年度	2,100	8,300	43,250	8,100	2,300	1,050	65,100	800	800
	前年度比	140.5%	268.1%	91.3%	149.4%	197.8%	171.4%	127.7%	137.5%	75.0%
夏 季 (6～9月)	19年度	7,700	72,100	102,800	41,050	10,450	4,050	238,150	2,450	3,200
	18年度	5,000	61,450	107,000	30,650	5,100	2,950	212,150	2,600	3,300
	前年度比	154.0%	117.3%	96.1%	133.9%	204.9%	137.3%	112.3%	94.2%	97.0%
秋 季 (10・11月)	19年度	3,600	23,550	36,700	10,450	5,800	2,100	82,200	850	1,400
	18年度	2,200	21,000	32,000	9,050	2,250	1,650	68,150	1,000	1,000
	前年度比	163.6%	112.1%	114.7%	115.5%	257.8%	127.3%	120.6%	85.0%	140.0%
冬 季 (12～3月)	19年度	12,700	51,400	98,400	44,400	16,350	6,050	229,300	1,650	3,200
	18年度	8,050	43,100	85,650	38,250	9,300	4,700	189,050	1,450	4,450
	前年度比	157.8%	119.3%	114.9%	116.1%	175.8%	128.7%	121.3%	113.8%	71.9%
合 計	19年度	26,950	169,300	277,400	108,000	37,150	14,000	632,800	6,050	8,400
	18年度	17,350	133,850	267,900	86,050	18,950	10,350	534,450	5,850	9,550
	前年度比	155.3%	126.5%	103.5%	125.5%	196.0%	135.3%	118.4%	103.4%	88.0%

		北 米		中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計
		米国	カナダ			オーストラリア	その他		
春	19	1,200	100	50	0	400	50	950	87,600
	18	1,050	150	50	50	350	50	300	68,700
	比	114.3%	66.7%	100.0%	0.0%	114.3%	100.0%	316.7%	127.5%
夏	19	3,800	450	200	300	850	300	3,150	252,850
	18	4,250	500	200	250	550	150	1,500	225,450
	比	89.4%	90.0%	100.0%	120.0%	154.5%	200.0%	210.0%	112.2%
秋	19	2,000	150	100	50	650	150	1,550	89,100
	18	1,450	200	100	50	2,000	50	800	74,800
	比	137.9%	75.0%	100.0%	100.0%	32.5%	300.0%	193.8%	119.1%
冬	19	3,850	650	100	50	31,450	650	10,500	281,400
	18	2,950	500	50	50	20,050	550	2,600	221,700
	比	130.5%	130.0%	200.0%	100.0%	156.9%	118.2%	403.8%	126.9%
計	19	10,850	1,350	450	400	33,350	1,150	16,150	710,950
	18	9,700	1,350	400	400	22,950	800	5,200	590,650
	比	111.9%	100.0%	112.5%	100.0%	145.3%	143.8%	310.6%	120.4%

【外国人来道者数(実人数)の推移】

(上段:人数(人) 下段:前年度比(%))

国 名 等	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		
	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	
ア ジ ア	台湾	119,750 89.9	45,050 66.9	208,600 174.2	100,200 222.4	276,800 132.7	149,950 149.7	267,900 96.8	150,250 100.2	277,400 103.5	142,300 94.7
	韓国	61,200 146.1	46,300 159.7	63,850 104.3	42,750 92.3	70,050 109.7	44,400 103.9	133,850 191.1	69,750 157.1	169,300 126.5	94,350 135.3
	香港	56,600 102.1	25,900 99.6	82,750 146.1	39,400 152.1	86,500 104.5	37,600 95.4	86,050 99.5	38,750 103.1	108,000 125.5	53,150 137.2
	中国	5,800 111.5	2,450 98.0	12,050 207.8	4,950 202.0	15,650 129.9	7,050 142.4	17,350 110.9	7,100 100.7	26,950 155.3	10,650 150.0
	シンガポール	4,000 177.8	1,350 168.8	6,000 150.0	1,900 140.7	11,800 196.7	5,900 310.5	18,950 160.6	7,400 125.4	37,150 196.0	15,000 202.7
	その他	4,200 87.5	2,050 73.2	5,250 125.0	1,950 95.1	5,650 107.6	2,400 123.1	10,350 183.2	4,000 166.7	14,000 135.3	5,850 146.3
	米 国	7,850 104.7	4,700 104.4	9,100 115.9	4,300 91.5	8,750 96.2	4,550 105.8	9,700 110.9	5,300 116.5	10,850 111.9	5,000 94.3
ロシア	6,950 102.2	4,600 112.2	6,700 96.4	4,200 91.3	5,900 88.1	3,700 88.1	5,850 99.2	3,400 91.9	6,050 103.4	3,550 104.4	
オーストラリア	7,550 338.6	600 109.1	14,650 194.0	600 100.0	18,900 129.0	650 108.3	22,950 121.4	900 138.5	33,350 145.3	1,250 138.9	
その他(不明含む)	19,880 99.3	14,250 97.9	18,100 91.0	11,050 77.5	13,650 75.4	7,700 69.7	17,700 129.7	7,300 94.8	27,900 157.6	9,350 128.1	
合 計	293,780 105.2	147,250 96.8	427,050 145.4	211,300 143.5	513,650 120.3	263,900 124.9	590,650 115.0	294,150 111.5	710,950 120.4	340,450 115.7	

## 2 訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）

### (1) 国・地域別

平成19年度の訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）は、210万9,681人で、前年度比119.4%と増加しました。

国・地域別で見ると、台湾が88万721人（前年度比102.1%）と最も多く、次いで香港が36万9,483人（同119.9%）、韓国が30万340人（同132.5%）の順となっています。

### <平成19年度訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）>

（単位：人泊）

区分	アジア							ヨーロッパ			
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	その他	小計	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ
19年度	72,537	300,340	880,721	369,483	139,571	52,739	1,815,391	13,261	9,642	4,019	4,766
18年度	46,176	226,688	862,543	308,039	70,677	38,456	1,361,028	13,705	6,955	4,263	6,632
前年度比	157.1%	132.5%	102.1%	119.9%	197.5%	137.1%	133.4%	96.8%	138.6%	94.3%	71.9%

区分	ヨーロッパ		北米		中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計
	その他	小計	米国	カナダ			オーストラリア	その他		
19年度	13,091	44,779	40,310	5,078	1,465	1,626	135,790	4,372	60,870	2,109,681
18年度	17,405	48,960	35,895	5,037	1,399	1,349	99,168	2,925	19,338	1,766,650
前年度比	75.2%	91.5%	112.3%	100.8%	104.7%	120.5%	136.9%	149.5%	314.8%	119.4%

### (2) 月別・季節別

月別で見ると、2月が最も多く、全体の14.3%を占め、次いで7月の11.2%、12月の10.9%となっています。前年度に比べると8月を除き上昇しており、最も伸び率が高い月は1月で155.5%、次いで12月が132.9%、11月が123.1%となっています。

季節別で見ると、冬季が前年同期の131.8%と大幅に増加し、他の季節も、秋季122.7%、春季112.8%、夏季107.6%とそれぞれ増加しています。

### <月別・季節別訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）>

（単位：人泊）

区分	春		夏				上期計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月別	100,543	125,648	146,765	235,892	194,625	137,633	941,106
構成比	4.8%	6.0%	7.0%	11.2%	9.2%	6.5%	44.6%
前年度比	117.4%	109.4%	106.2%	113.2%	99.6%	113.1%	108.9%
季節別	226,191		714,915				941,106
構成比	10.7%		33.9%				44.6%
前年度比	112.8%		107.6%				108.9%

区分	秋		冬				下期計	年間合計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
月別	164,590	115,590	230,927	222,310	301,086	134,072	1,168,575	2,109,681
構成比	7.8%	5.5%	10.9%	10.5%	14.3%	6.4%	55.4%	100.0%
前年度比	122.4%	123.1%	132.9%	155.5%	121.3%	122.9%	129.5%	119.4%
季節別	280,180		888,395				1,168,575	2,109,681
構成比	13.3%		42.1%				55.4%	100.0%
前年度比	122.7%		131.8%				129.5%	119.4%

### (3) 圏域別

圏域別で見ると、十勝、釧路・根室圏を除く圏域において、前年度比で増加となりました。道央圏が126.0%と最も高く、次いでオホーツク圏が119.1%、道北圏が110.4%の順となっています。

< 圏域別訪日外国人来道宿泊延べ数 >

(単位：人泊、%)

圏域	ア ジ ア						小計
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	その他	
道南	3,781	15,279	35,336	9,252	3,405	3,869	70,922
道央	59,795	256,356	586,167	279,747	93,506	39,765	1,315,336
道北	4,753	14,788	123,841	47,216	22,582	4,089	217,269
オホーツク	2,081	4,879	16,586	12,904	3,167	1,574	41,191
十勝	571	4,202	78,658	12,897	9,201	1,549	107,078
釧路・根室	1,556	4,836	40,133	7,467	7,710	1,893	63,595
合計	72,537	300,340	880,721	369,483	139,571	52,739	1,815,391

圏域	ヨ ャ ロ ッ パ					小計	北米	
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	その他		米国	カナダ
道南	557	372	170	115	756	1,970	2,963	167
道央	7,871	7,461	2,579	2,810	8,542	29,263	29,905	3,976
道北	1,326	737	517	967	1,413	4,960	3,384	652
オホーツク	871	197	214	488	410	2,180	1,697	118
十勝	21	473	304	108	1,220	2,126	733	27
釧路・根室	2,615	402	235	278	750	4,280	1,628	138
合計	13,261	9,642	4,019	4,766	13,091	44,779	40,310	5,078

圏域	中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計	18年度	前年度比
			オーストラリア	その他				
道南	100	15	1,243	100	4,281	81,761	74,164	110.2
道央	1,035	1,170	113,347	3,071	52,533	1,549,636	1,229,608	126.0
道北	204	150	17,144	536	1,814	246,113	222,954	110.4
オホーツク	38	111	294	175	282	46,086	38,711	119.1
十勝	19	9	3,365	75	1,560	114,992	118,811	96.8
釧路・根室	69	171	397	415	400	71,093	82,402	86.3
合計	1,465	1,626	135,790	4,372	60,870	2,109,681	1,766,650	119.4

### (4) 市町村別

市町村別で見ると、有名温泉地を抱える市町村が上位にきており、札幌市が75万2,081人(前年度比134.5%)で最も多く、次いで登別市が19万7,711人(前年度比109.6%)、倶知安町14万3,557人(前年度比156.9%)、洞爺湖町11万1,656人(前年度比112.2%)の順となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	台湾	880,721人	102.1%
2	香港	369,483人	119.9%
3	韓国	300,340人	132.5%
4	シンガポール	139,571人	197.5%
5	オーストラリア	135,790人	136.9%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	752,081人	134.5%
2	登別市	197,711人	109.6%
3	倶知安町	143,557人	156.9%
4	洞爺湖町	111,656人	112.2%
5	上川町	104,684人	90.0%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	304,688人	122.4%
2	登別市	94,137人	94.3%
3	上川町	79,991人	80.8%
4	洞爺湖町	60,320人	129.5%
5	壮瞥町	48,891人	85.9%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	177,015人	133.7%
2	登別市	21,483人	110.2%
3	洞爺湖町	16,838人	49.3%
4	小樽市	15,546人	122.5%
5	旭川市	13,981人	158.3%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	108,883人	167.6%
2	登別市	55,647人	121.3%
3	壮瞥町	30,390人	101.7%
4	洞爺湖町	18,242人	179.5%
5	留寿都村	12,058人	109.3%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	28,493人	152.6%
2	壮瞥町	6,717人	138.9%
3	洞爺湖町	5,107人	128.6%
4	登別市	5,090人	154.6%
5	千歳市	3,964人	213.9%

【ロシアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	3,692人	110.6%
2	小樽市	2,452人	119.2%
3	根室市	1,601人	92.8%
4	稚内市	1,151人	93.8%
5	釧路市	703人	52.0%

【米国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	19,025人	114.6%
2	登別市	3,474人	143.1%
3	函館市	2,697人	112.6%
4	千歳市	2,512人	123.0%
5	旭川市	1,688人	161.2%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】 【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	89,503人	127.3%
2	富良野市	14,839人	165.6%
3	留寿都村	8,220人	189.7%
4	札幌市	6,684人	122.5%
5	二セコ町	6,577人	176.8%

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	47,001人	231.9%
2	上川町	13,648人	204.1%
3	千歳市	10,937人	355.0%
4	登別市	9,635人	293.4%
5	洞爺湖町	7,931人	298.5%

## 北海道観光入込客数調査報告書 [平成19年度]

---

平成20年7月

北海道経済部観光のくにつくり推進局

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号 011-231-4111 内線 26-568

F A X 011-232-4120

---